

「クスノキの花(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

クスノキ *Cinnamomum camphora* は、街路樹や公園、それに屋敷の庭木として都内でもよく見かける。材は堅牢で耐久性も高いので、かつては木造船の材として利用されていた。



私の住む、小石川五丁目界限にも、クスノキは多い。このクスノキのある屋敷も、私の通勤路にある。枝や葉が密なので、夏は涼しい木陰を作ってくれていて、大変有難い存在だ。



クスノキの語源は「臭の木」または「葉の木」という説がある。樹全体から独特の芳香を放ち、強い防虫効果がある。実際にクスノキは、材や葉の成分を蒸留精製し、樟脳(しょうのう)を製造する原料になる。現在樟脳はほとんど使われなくなったが、今でも細々と製造・販売されている。



小石川植物園には、クスノキの大木が何本もある。今の時期は薄緑色(リーフ・グリーン)の葉をたくさんつけている。植物園の樹木は、葉も花も、手に届く高さのものが多く、観察に適している。



樹の根元を見ると、おびただしい数の落ち葉が見られる。この春にクスノキが落としたものだ。クスノキは「常緑広葉樹」だが、スタジイやキンモクセイと同じように、新緑の時期に古い葉を落とすのだ。



落ち葉をよく観察すると、まだ水分が残っているものも多く、つい最近に落葉したものであることがわかる。常緑樹とは決して「非落葉樹」ではなく、新緑と落葉がほぼ同時に起きる樹木なのだ。